

筑波宇宙センター 外観



筑波宇宙センターは、日本の宇宙開発の中核として役割を担う拠点。一般公開をしている常設の展示館があり、研究施設を見学するツアーも開かれていることから、年間28万人ほどのお客様が訪れている。

厚生棟 トイレ外観



食堂や売店のある厚生棟のトイレ器具数不足を受け、隣の敷地にトイレを新設した。建物の屋根には太陽光発電装置が備えられ、トイレ内の照明や空調設備の動力として活用している。

厚生棟 女性トイレ



男性トイレ同様、窓からの採光によって明るく感じられる空間。大便器ブースの間仕切りは天井まで立上げられ、プライバシー性を高めている。

厚生棟 女性トイレ 洗面コーナー・パウダーコーナー



洗面コーナー、パウダーコーナー共に個別鏡を採用。隣の人の視線を気にせずに使用することができる。パウダーコーナーにはコンセントが設けられている。

厚生棟 多機能トイレ



多機能トイレは、オストメイトに必要な設備がパッケージされたコンパクト多機能トイレバックを採用。トイレ内には人感センサー式の照明を採用している。

厚生棟 男性トイレ



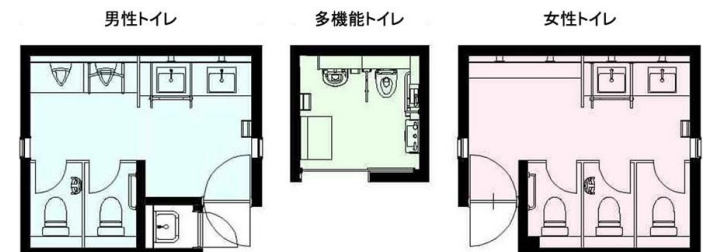
明るく清潔感のあるトイレ空間にはエアコンが設置され、利用者への快適配慮がなされている。床・壁ともに木目調で統一され、落ち着いた雰囲気演出している。

厚生棟 女性トイレ 大便器ブース



ローシルエット型のウォシュレット一体形便器を採用。棚付紙巻器やライニングに小物や荷物を置くことができる。

厚生棟 トイレ図面



厚生棟 男性トイレ 小便器コーナー



省エネルギーを図るため、自己発電タイプの小便器を採用。足元には尿の飛散によるにおいや、汚れを軽減するハイドロセラ・フロアを設置している。高窓より採光することで、明るいトイレ空間を実現した。

厚生棟 男性トイレ 大便器ブース・洗面コーナー



お子様連れ配慮として、大便器ブースの1ヶ所にはベビーチェアを設置。洗面コーナーには電気温水器が設置され、利用者からは「温水が出るのでトイレが使いやすくなった」という声があがっている。

筑波宇宙センター 展示館「スペースドーム」



自由に見学できる常設の展示館。人工衛星のモデルや本物のロケットエンジンなどが展示され、JAXAの取り組みについて知ることができる。

筑波宇宙センター 材料実験開発棟 トイレ入口



主に見学ツアー参加者が利用するトイレ。先にリニューアルした男性トイレ・多機能トイレに続き、今回の改修では女性トイレと授乳室がリニューアルされた。

材料実験開発棟 女性トイレ 大便器コーナー



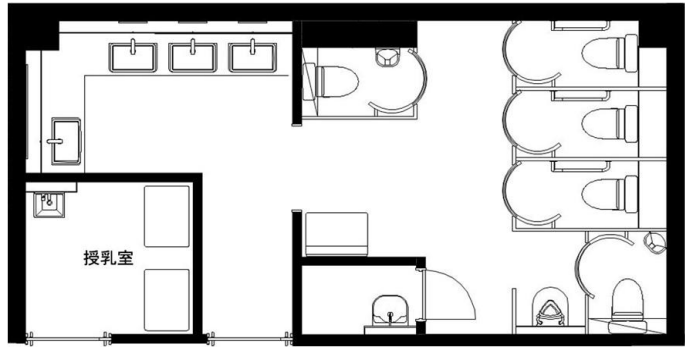
お子様が親しみやすいよう、ブース扉とライニングをポップな色調で仕上げた明るい空間。様々な利用者に配慮し、5つのブースのうち3つには手すり、2つにはベビーチェアを設置している。

材料実験開発棟 女性トイレ お子様連れ配慮



幼児用小便器の足もとには、立つ位置をガイドしながら、尿の飛散によるにおいや、汚れを軽減するハイドロセラ・フロアキッズを採用。お子様連れの見学者に配慮し、おむつ替えシートが設けられている。

材料実験開発棟 女性トイレ 図面



材料実験開発棟 女性トイレ 大便器ブース



すべてのトイレにおいてウォッシュレットを設置している。ボタンを押すたびに発電し、乾電池の交換や電源工事が不要なエコリモコンを採用。

材料実験開発棟 女性トイレ 洗面コーナー



モザイクタイルがあしらわれ、落ち着いた雰囲気気の洗面コーナー。荷物配慮として、カウンターの奥には一段高い棚が設けられている。

種子島宇宙センター 竹崎グランドトイレ 外観



種子島宇宙センターの「宇宙科学技術館」近くの駐車場脇にあるトイレ。入口にはスロープが設けられ、車いす使用者がアプローチしやすいように配慮がなされている。

竹崎グランドトイレ 男性トイレ 小便器コーナー



低リップタイプの壁掛小便器を採用。お子様が使いやすいよう、手すり为一体となった幼児用小便器が設置されている。

竹崎グランドトイレ 女性トイレ 大便器ブース



小窓に面した明るい大便器ブース。改修前はすべて和式便器であったが、レイアウトを拡張することで、全洋式化が実現した。

竹崎グランドトイレ 女性トイレ 洗面コーナー



ボウルが一体になった清掃性の良い洗面カウンターを採用。荷物配慮として、カウンターの奥には一段高い棚が設けられている。

竹崎グランドトイレ 図面



利用頻度の少なかったシャワー室と更衣室をなくし、トイレを拡張。また、さまざまな利用者に配慮し新たに多機能トイレを設置した。

建築概要

名 称	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 筑波宇宙センター／種子島宇宙センター
所 在 地	<筑波宇宙センター>茨城県つくば市千現2-1-1 <種子島宇宙センター>鹿児島県熊毛郡南種子町大字 荃永字麻津
施主・監理	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
設 計	株式会社 ニッテイ建築設計
施 工	<筑波宇宙センター>平成建設株式会社 <種子島宇宙センター>有限会社岩坪土木
竣 工 年 月	(改修)2017年3月

水まわりの特長

<改修の経緯>
筑波宇宙センターは、日本の宇宙開発の中核として役割を担うJAXAの拠点の一つ。人工衛星の開発や運用、宇宙飛行士の養成、ロケット・輸送システムの開発などを推進している。
種子島宇宙センターでは人工衛星を打ち上げるための施設として試験や開発が行われている。
JAXA全体で推進しているオフィス環境改善の一環として、筑波では17棟のトイレにおいて改修・新設がなされ、種子島では3ヶ所のトイレ改修が実施された。

<トイレの特長>
筑波宇宙センターの「厚生棟トイレ」は、食堂や売店のある厚生棟内トイレの器具数不足を受け、隣の敷地に新設されたトイレ。ソーラー発電による空調完備と、採光の工夫による明るい空間づくりが快適性を実現している。「材料実験開発棟トイレ」は、主に見学ツアーへの参加者が利用するトイレ。モザイクタイルや明るい色の内装によって女性やお子様が親しみやすい空間となっている。
種子島宇宙センターの「竹崎グランドトイレ」は、展示館の近くにある屋外トイレ。レイアウトを大幅に拡張することで、便器の全洋式化、多機能トイレの設置を実現した。